

# 旋削加工による試作研究 (3)

## 集成材の加工について

研究員 末 吉 光 雄

研究員 楠 畑 裕 也

### 1. 目 的

木材は旋削加工によって容易に製品となりやすく、比較的小規模な設備で生産体制を整えることができる。しかしながら旋削加工のなかでも前挽きろくろの加工は高度に習熟した技術を必要とするため、本県では企業に結びつくまでに至っていない。そこで手仕事によるろくろ加工の技術を具体的に製品の試作をとおして紹介し、県内業界に資することを目的とするのがこの研究の主眼である。

### 2. 概 要

挽き物の材料は単材の場合、きわめて大きな材料を必要とするが、材料の歩止まりや良材の確保が困難になる傾向があるので、当年度は端材を積層した集成材を作り、それへの

加工に対する技術を主体に次の項目について研究した。

#### (1) 集成材の加工と製品効果

イ、同積材による集成材と異種材による積集成材

ロ、等厚の集成材と不等厚の集成材

#### (2) 接着材の適否

#### (3) 着色料の効果

### 3. 成果及び考察

集成材で試作された各種の製品は、単材とはちがった製品効果を生みだした。今後さらに集成材の配列と曲面になって現れる形を追求することによって、製品の附加価値が一層高められる見通しである。